「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼

◇◆◇　No.0906　◇◆◇　　26/09/02

【　8 月相場もやや小動き、9 月は今年最後の「動意のチャンス」か　】

先日終了した 8 月のドル/円相場は、月間変動幅が 4.97 円（155.23-160.20 円）となった。最後の最後、約 1 ヵ月ぶりとなる 160 円台をつけるなど、やや大きめな変動を達成したことで、なんとか帳尻を合わせた格好ながら全体を通しては小動きな 1 ヵ月だったと言えそうだ。実際、前述した月間変動 4.97 円は今年の 5 番目という中位の変動にとどまっている。

そうしたなか、経験則として過去の 9 月相場を振り返ってみると、「ほかの月に比べて大きな値幅が観測される」ーーという傾向があるようだ。今年も残り 4 ヵ月を切ったが、ヒョッとすると足もとの 9 月相場は早くもヤマ場、今年の最終動意が期待できる 1 ヵ月となる可能性もある。

◎今年の相場の特徴、「月末・月初」が荒れやすく要注意

今回の当レターでは、月初の恒例となっている過去の経験則を参考にした、月間見通しを以下で考えて見たい。

まずは、1990 年以降昨年まで過去 36 年間の 9 月相場の勝敗表を調べてみると 20 勝 16 敗。若干ドル高有利ではあるものの、大きな特徴とは言えそうにはないだろう。しかし、2021 年からの直近 5 年だけを見ると 5 勝 1 敗。何故だか理由は不明だが、近年の 9 月相場は結果として「かなりドル高有利」になっていることだけは、付け加えておきたいと思う。

方向性ということでは特徴に欠ける 9 月相場だが、別の大きな特徴が見られている。それは先でも取り上げた「ほかの月に比べて大きな値幅が観測される」ーーと言うことだ。

実際に過去の 9 月相場の変動を幾つか取り上げると、その典型例は月間に 11.15 円動いた（年間 3 位の大変動、以下同）1998 年のケースだろうが、そのほかでも 1999 年は 8.20 円（同 4 位）、2002 年の 7.41 円（同 4 位）、2003 年の 7.63 円（同 1 位）、2005 年の 4.94 円（同 2 位）、2014 年の 5.76 円（同 4 位）、2017 年の 5.94 円（同 2 位）ーーなどといったように枚挙に暇がない。年間トップではなく、2-4 位クラスの大きな変動をたどることが確かに多く観測されていた。

なお、以前から何度かレポートしているように、金融市場のジンクスとして、「ハリケーン・シーズンの市場は荒れ易い」と言われている。

改めて指摘するまでもなく、今年の台風発生数は異常ともいえるもので、事実日本気象協会によると「8 月までの台風発生数は平成以降で、すでに最多タイのハイペース」だという。それからすると、今年 9 月の為替相場が「大荒れ」となる危険性を秘めているのかもしれない。

そして、すでにお分かりの方もいると思うが、今年の相場の特徴のひとつに「月末あるいは月初に大きく動く」ーーという傾向がある。

その典型は月末 30 日と 31 日に当局の実弾介入が実施され 5 円以上もドルが急落した 7 月になるだろうが、4 月も同様に当局の介入観測で月末大荒れだったことは記憶に新しい。また、先の 8 月も「大荒れ」というにはかなりの物足りなさはあるものの、月末に 1 ヵ月ぶりの 160 円台を記録するなど、「次なる動意の萌芽」をうかがわせていた。今月も月末に向け、荒っぽい上下動をたどる展開には一応要注意だ。

一方、為替の動きは一旦棚上げし、過去の 9 月をニュースの視点でみてみると、何故か金融関係の大事件の起こりやすいことが知られている。

実際に幾つか例を挙げると、「プラザ合意（1985 年）」を筆頭に、「いわゆるブラック・フライデーが起こる（1986 年）」「英ボンドと伊リラがERMと呼ばれた当時の欧州通貨のバンド制から離脱（1992 年）」「大手ヘッジファンドLTCMの巨額損失発覚（1998 年）」「リーマンブラザーズ破たん（2008 年）」ーーなどとなる。また 2022 年の 9 月 22 日には、あの 23 年ぶりとなる政府・財務省の 2.8 兆円規模「ドル売り・円買い介入」も実施されていたほか、「日経平均株価が 44372 円で終値ベースの過去最高値を更新」したのも昨年 9 月の出来事だった。

最後に、上記を踏まえたうえで、昨年 9 月の主な出来事をプレイバックしておくと、先で取り上げた「日経平

FX-newsletter

均株価が最高値更新（11日）」のほか、「日米が関税協議めぐり合意文書を締結、ひととおりの区切りがつく（4日）」、「7月総選挙で大敗を喫した石破首相がようやく退陣を表明（8日）＊注；実際の辞任は翌10月」、「映画『国宝』が大ヒット、観客動員数が早々に1000万人突破、興行収入142億円に（16日）」ーーなどが挙げられよう。
思えば、1年前は日本の政治情勢がゴタゴタしていた時期で、かなり不安定だったが、果たして現状はどうか。筆者自身はあまりそう思わないのだが、一部オールドメディアの報道などを見ると高市政権の支持率が低下し、基盤が揺らいでいるかのような「錯覚」を覚えずにはいられない。可能性は低いと予想しているものの、ヒョッとすると日本の政変などにも一応要注意という気がしている。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆　Copyright （C） fx-newsletter limited company All Rights Reserved　◆◇◆

FX-newsletter